本を読んで言語力を身に付けよう
―「書き抜き読書ノート」のすすめ―

開倫塾
塾　長　林　明夫

１．はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

これから秋が深まり、読書に最適な季節になりますね。そこで今日は、「言葉の力」、つまり「言語力」についてお話をさせていただきます。

２．本を読んで言語力を身に付けよう―「書き抜き読書ノート」のすすめ―

(１)一人ひとりの子供にとって大切なことはたくさんあるでしょうが、その中でも言葉の力はとても大切であると思います。

(２)言葉の力、つまり言語力をつけるのに最もよい方法は、文を読むことだと思います。文を読むのに一番よいのは読書です。読書に適した季節になりましたので、学校の図書室や県・市町村の図書館などを大いに活用して、本に親しんでいただきたいと思います。

(３)新しい学習指導要領には、「理数系の学力をつけよう」「伝統的な文化を尊重しよう」「英語力をつけよう」という 3 つの柱が掲げられています。この 3 つの柱を達成するための教科の領域すべてに大事なこと、つまり教育の基礎として大事なことは、言葉の力です。

(４)確かな学力を基盤とした生きる力をつけるためには言葉の力が一番大事ですので、国語科の勉強をもっともっとしていかなければならないことは当然です。しかし、それ以上に大事なのは読書だと思います。

(５)そのためには、本をたくさん読む機会をたくさんつくることが必要です。先ほどもお話しましたが、学校の図書室や公立の図書館を大いに活用することが、そのよい機会となります。

(６)言葉の力は、各人の知的なはたらきにとって基盤的な意味をもちます。言葉の力こそが、各人の認識や思考、判断を支えるといえます。ですから、そのような基盤の上に立ってはじめて、言葉はコミュニケーションの力となるのです。

(７)先程お話した新学習指導要領には、理数系の学力・伝統的な文化・英語力の 3 本柱が大事であると掲げられていますが、その基本は言葉の力です。ですから、この言葉の力をどのようにつけるかが一番大事になり、それには読書が最も有用なのです。

(８)では、読書はどのようにしたらよいのでしょうか。私は、同じ本をゆっくりゆっくり何度も、できれば 6 回読むのがよいと思います。1 回目は、何が書いてあるのかうっすらわかります。2 回目は、書いてあることの意味がだんだんとわかってきます。3 回目は、それが血となり肉となってきます。そして、5 ～ 6 回読むうちにはそれが自分のものとなり、大切な考えとして頭の中に入ってきます。

(９)1 冊の本を最後まで読むと、断片的な知識ではなくて、ものごとを体系的に道筋立てて考えた知識が身につきます。新聞を読んで 1 つの記事を理解することはもちろん大切ですが、1 冊の本を読み切ってまとまった知識やまとまった考え方を知り、また、まとまった作品を通して物語のあらすじなどを理解することもとても大事なことです。そうすると、その作品がよくわかり、その学問がよくわかるからです。

(10)このように、読書によって言葉の力、つまり言語力を育てることが大事であると思います。

(11)もう一つ、皆様にお勧めしたいことがあります。それは、本を読んでいく中で「これは素晴らしいな」と思える言葉や文章がありましたら、たとえ 1 行でもよいので自分のノートに書き写すことです。私は、このノートを「書き抜き読書ノート」と呼び、大いに活用しています。最近は、本だけでなく新聞を読んで素晴らしいなと思うことも書き抜いています。

(12)9 月 6 日の日本経済新聞には、「放浪記」の原作者である林芙美子さんの直筆の詩の原稿が見つかったことが載っていました。「放浪記」は、森光子さん主演で舞台化もされていますね。

(13)「放浪記」の中には「花の命は短くて 苦しきことのみ多かりき」という有名な言葉があります。しかし、最近見つかった直筆の詩には「花の命は短くて 苦しきことのみ多かれども 風も吹くなり 雲も光るなり」とあるそうです。前者は「非常に辛いことが多い」で終わっていますが、後者は「非常に辛いことが多いのだけれども、自分の背中を押してくれるすがすがしい風が吹くこともあるし、雲が光ることもある。このように希望があるのだ」となっています。

(14)私は、これもノートに書き抜きました。皆様も本や新聞などで共鳴する考えや感動する表現などを見つけましたら、ぜひノートに書き写すとよいと思います。

３．おわりに

そして、「書き抜き読書ノート」を絶えず手元に置いて、繰り返し繰り返し何十回も何百回も読むようにすると、そのうちに自分のものになり、最終的には人格形成の基礎となると思います。お子さんはもちろん、この放送をお聴きの社会人の皆様にとってもお役に立つと思いますので、一生かけてお読みになった書物の一部だけでも書き抜いておく「書き抜き読書ノート」づくりをぜひお勧めいたします。

― 2009 年 9 月 26 日―